

最近の経済動向

令和元年9月号

北海道の景気動向(令和元年7月の経済指標を中心として)

緩やかに持ち直しているものの、一部に弱い動きもみられる

■ 鉱工業生産動向

P 1 生産活動(鉱工業生産指数)
弱い動きとなっている

■ 需要動向(消費・投資)

P 2 個人消費(百貨店・スーパー販売額、コンビニエンスストア販売額、
P 3~4 専門量販店販売額、新車登録台数)
回復の動きに足踏み感がみられる

P 4 住宅建設(新設住宅着工戸数)
弱い動きとなっている

P 4~5 公共工事(公共工事請負金額)
増加している

P 5 観光(来道者数)
改善の動きに弱さがみられる

P 6 輸出入(輸出入額)
輸出額は前年を上回り、輸入額は前年を下回った

■ 企業倒産

P 6 企業倒産(件数、負債総額)
倒産件数、負債総額とも増加した

■ 雇用動向

P 7 求人・求職(月間有効求人数・求職者数、有効求人倍率)
改善が進む中、人手不足感がみられる

P 7 失業(完全失業者数、完全失業率)

■ 物価動向

P 7 物価(消費者物価指数)
消費者物価指数は前年を上回った

■ 企業の業況感

P 8 企業経営者意識調査
前期から横ばい

■ 企業情報

P 9 企業のみなさまから伺いました

■ 地域の経済動向

P 12 道南地域、道央地域、道北地域、オホーツク地域、十勝地域、釧路・根室地域

■ 景気動向指数

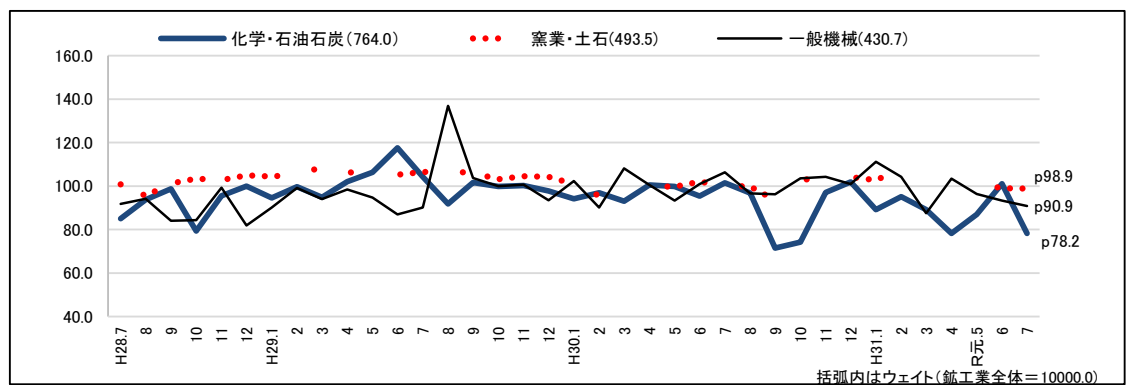
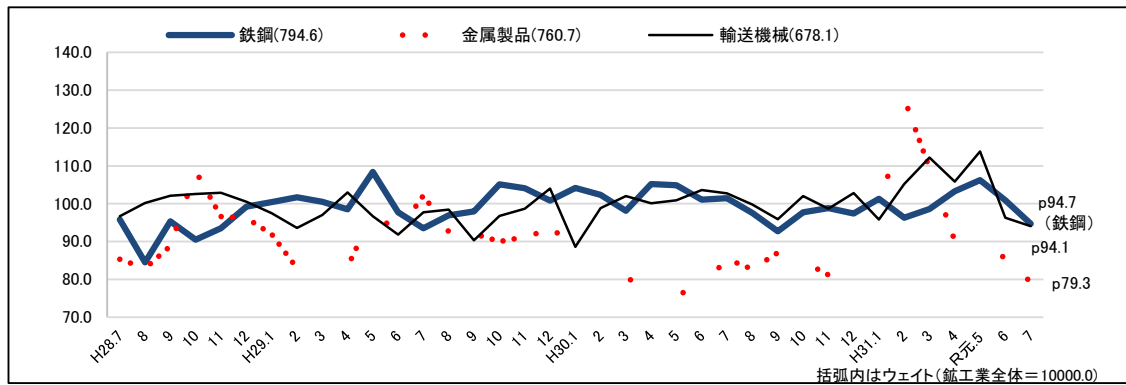
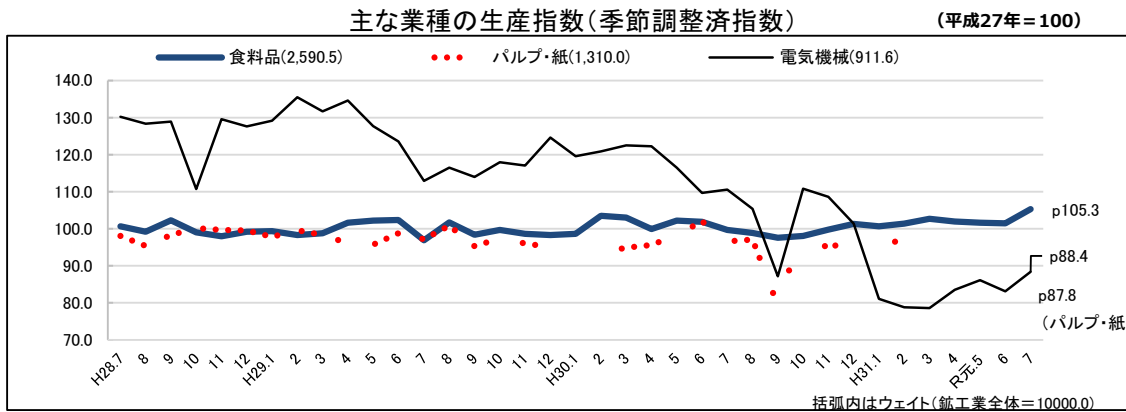
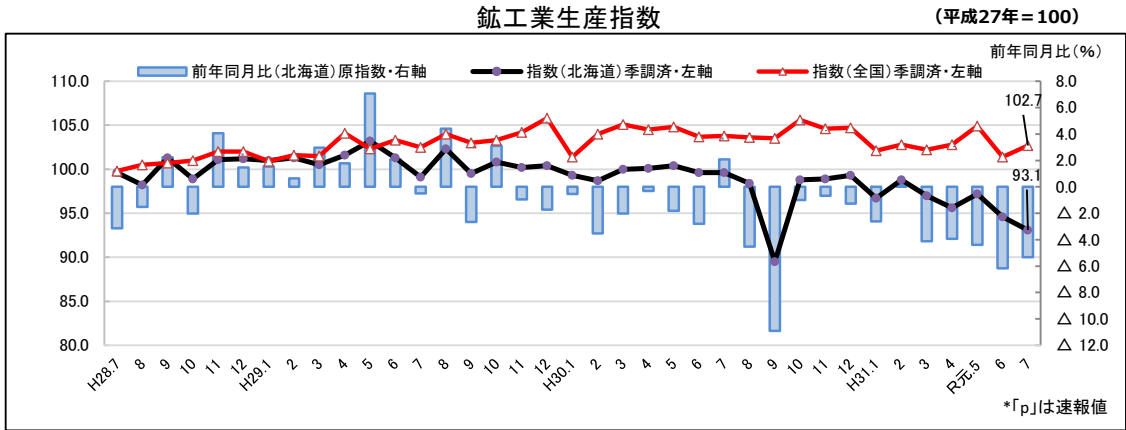
P 18 北海道の景気動向指数

北海道経済部経済企画局経済企画課

■生産活動～弱い動きとなっている

鉱工業生産指数（7月）

鉱工業生産指数(季節調整済)は、93.1で前月比△1.6%(2か月連続の低下)であり、原指数による前年同月比は、△5.3%(5か月連続の低下)となった。業種別にみると、化学・石油石炭製品工業等9業種が前月比低下、電気機械工業等6業種が前月比上昇となった。



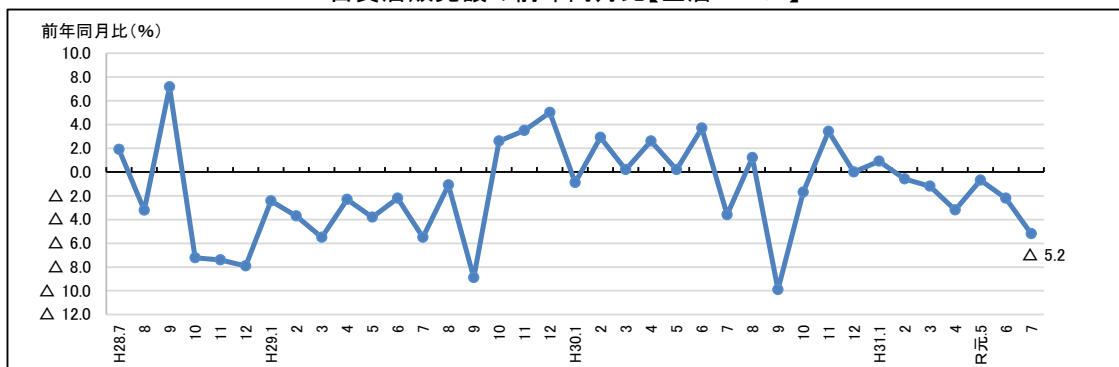
(資料: 北海道経済産業局)

■個人消費～回復の動きに足踏み感がみられる

百貨店販売額(全店ベース)(7月)

百貨店販売額は、159億円で前年同月比5.2%の減少となり、6か月連続で前年を下回った。

百貨店販売額の前年同月比【全店ベース】

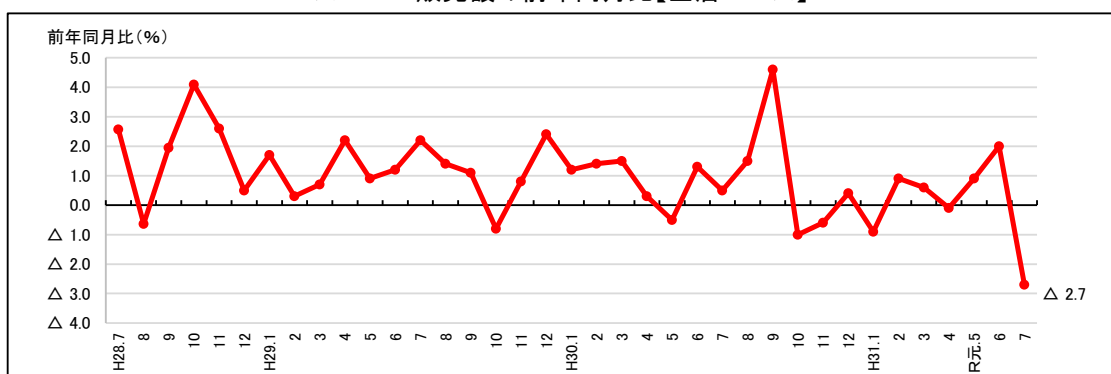


(資料：北海道経済産業局)

スーパー販売額(全店ベース)(7月)

スーパー販売額は、627億円で前年同月比2.7%の減少となり、3か月ぶりに前年を下回った。

スーパー販売額の前年同月比【全店ベース】

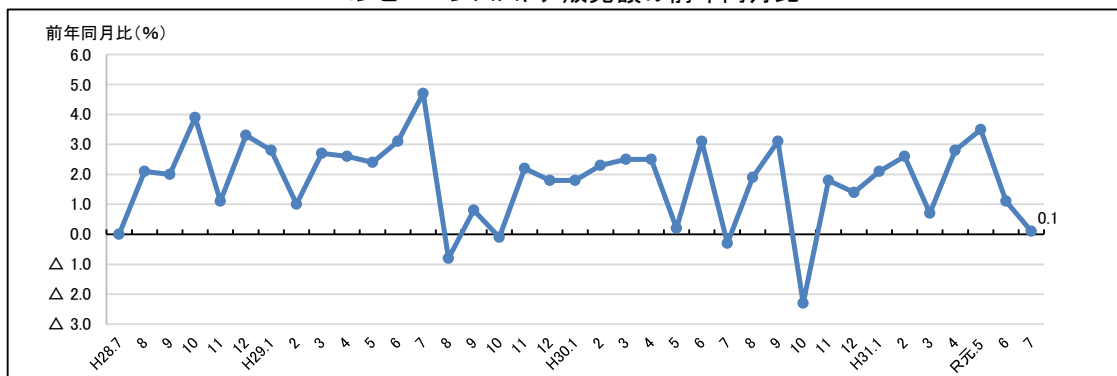


(資料：経済産業省)

コンビニエンスストア販売額(7月)

コンビニエンスストア販売額は、527億円で前年同月比0.1%の増加となり、9か月連続で前年を上回った。

コンビニエンスストア販売額の前年同月比

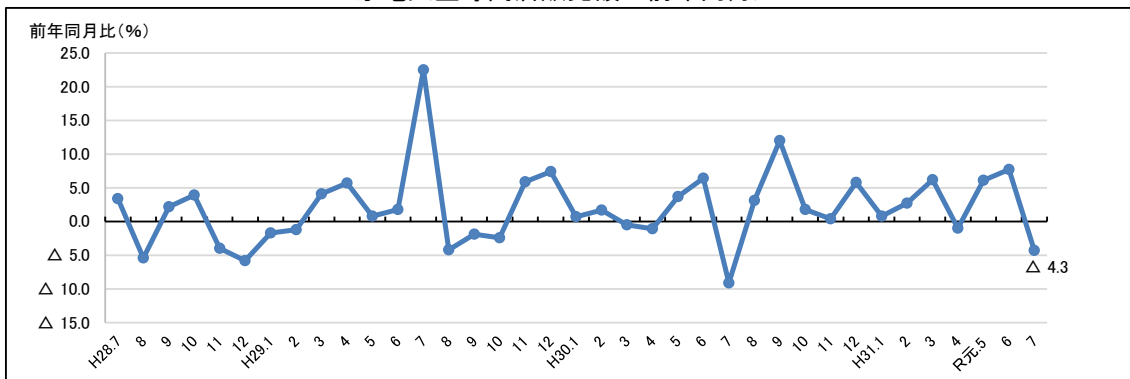


(資料：経済産業省)

家電大型専門店(7月)

家電大型専門店販売額は、123億円で前年同月比4.3%の減少となり、3か月ぶりに前年を下回った。

家電大型専門店販売額の前年同月比

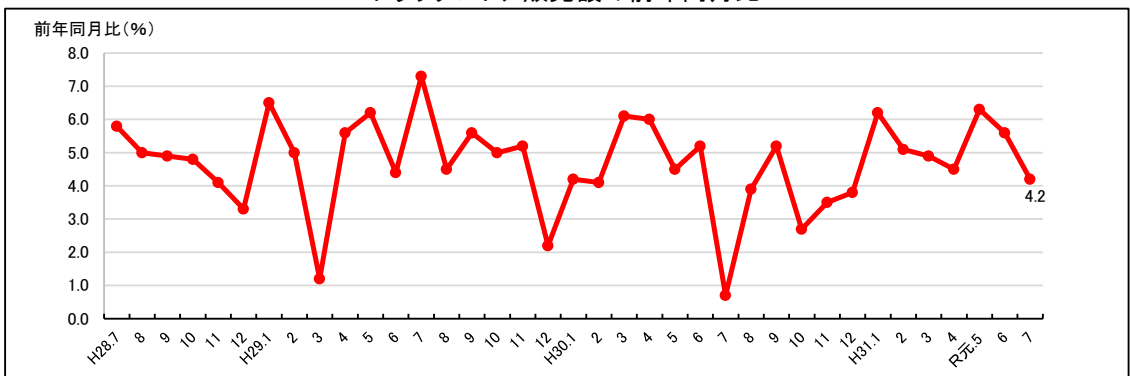


(資料：北海道経済産業局)

ドラッグストア販売額 (7月)

ドラッグストア販売額は、233億円で前年同月比4.2%の増加となり、51か月連続で前年を上回った。

ドラッグストア販売額の前年同月比

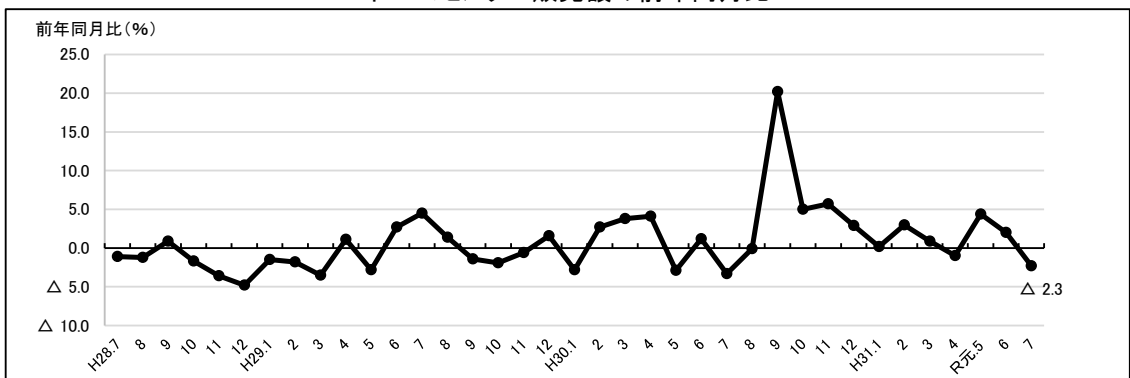


(資料：経済産業省)

ホームセンター (7月)

ホームセンター販売額は114億円で前年同月比2.3%の減少となり、3か月ぶりに前年を下回った。

ホームセンター販売額の前年同月比

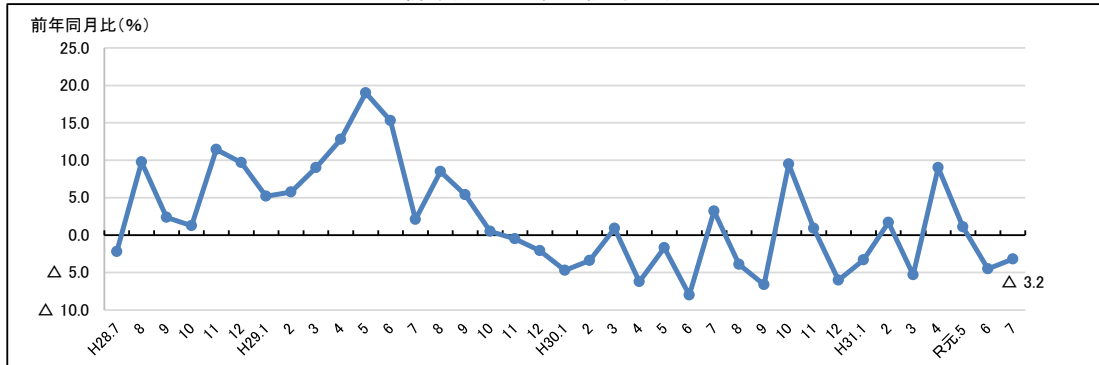


(資料：経済産業省)

新車登録台数（7月）

新車登録台数は、16,593台で前年同月比3.2%の減少となり、2カ月連続で前年を下回った。車種別にみると、普通車は、5,620台で同1.1%の減少、小型車は、6,285台で同3.0%の減少、軽自動車は、4,688台で同5.9%の減少となった。

新車販売台数の前年同月比



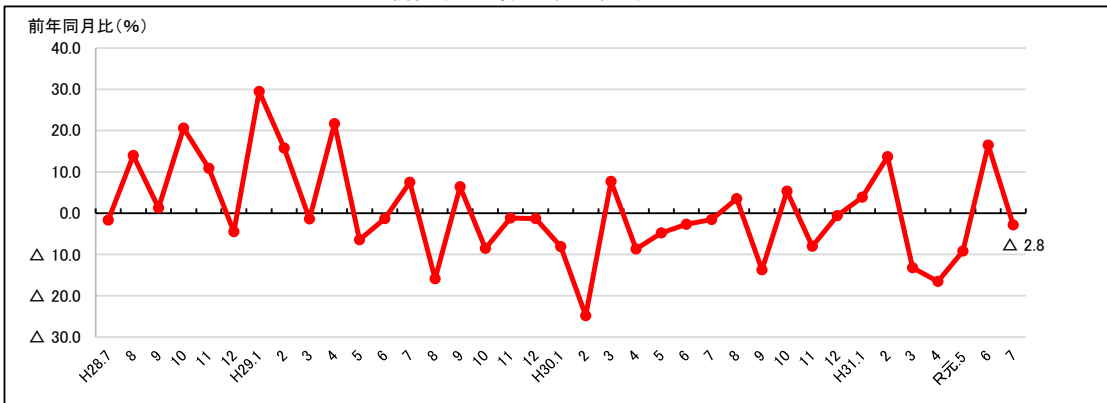
((一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車協会連合会調べ)

住宅建設～弱い動きとなっている

新設住宅着工戸数（7月）

住宅着工戸数は、3,443戸で前年同月比2.8%の減少となり、2か月ぶりに前年を下回った。利用関係別にみると、持家は、1,158戸で同0.2%の減少、貸家は、1,625戸で同17.6%の減少、分譲住宅は、581戸で同50.9%の増加となった。

新設住宅着工数の前年同月比



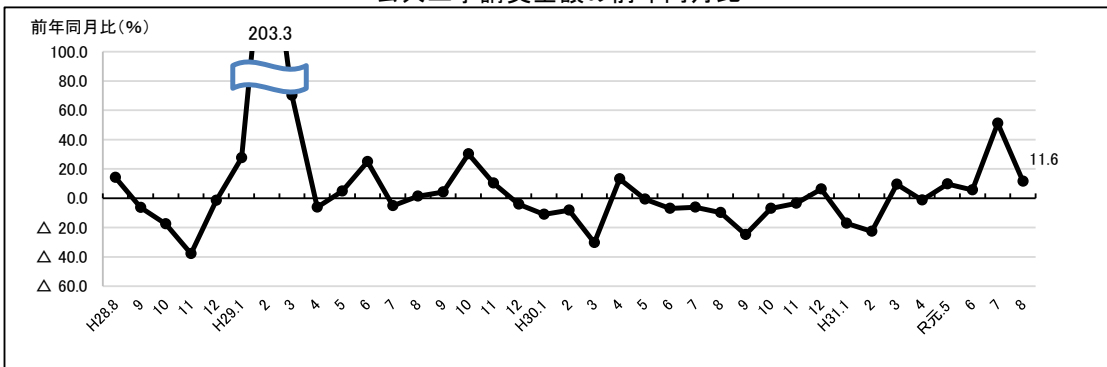
(資料：国土交通省)

公共工事～増加している

公共工事請負金額（8月）

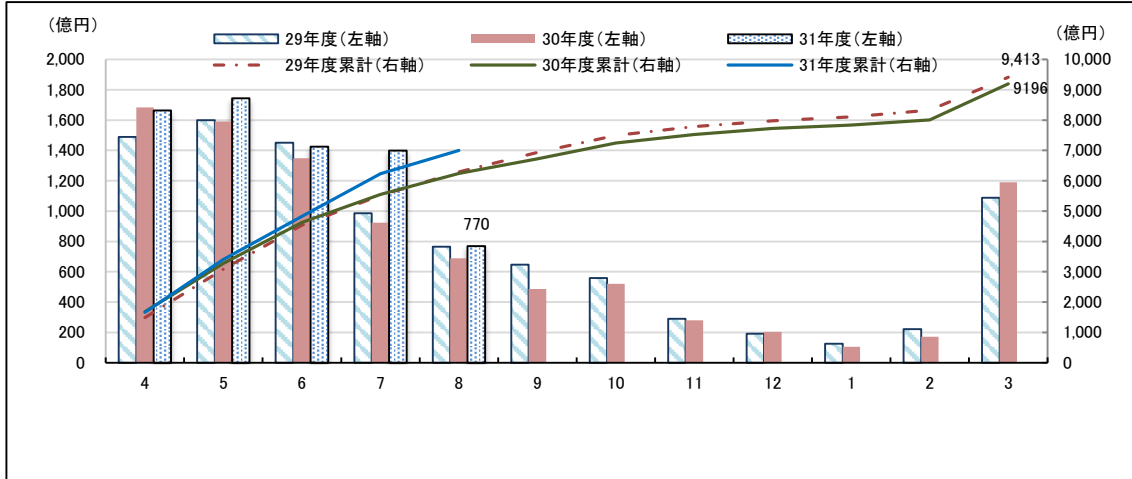
請負金額は、770億円の前年同月比11.6%の増加となり、4か月連続で前年を上回った。

公共工事請負金額の前年同月比



(資料：(株)北海道建設業信用保証)

公共工事請負金額



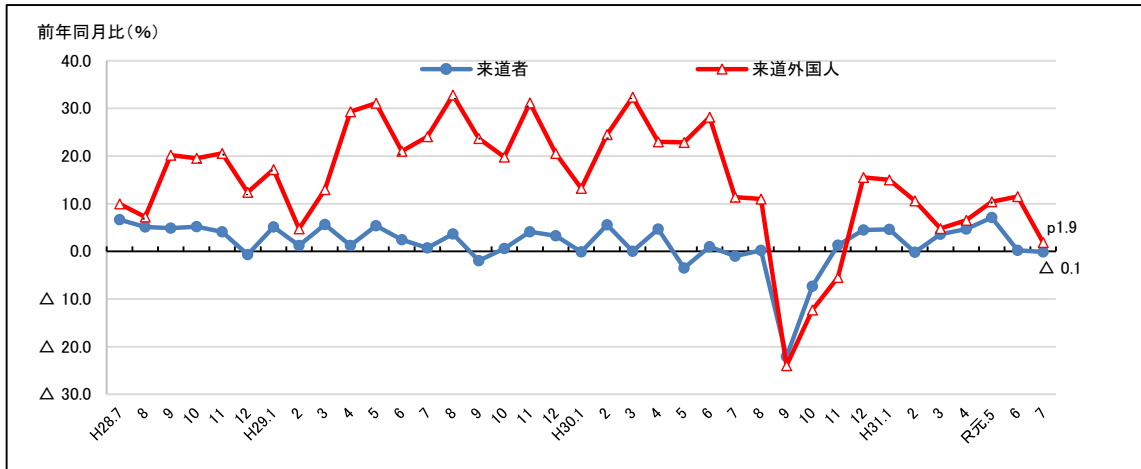
(資料：(株)北海道建設業信用保証)

■ 観光～改善の動きに弱さがみられる

来道者数(7月)

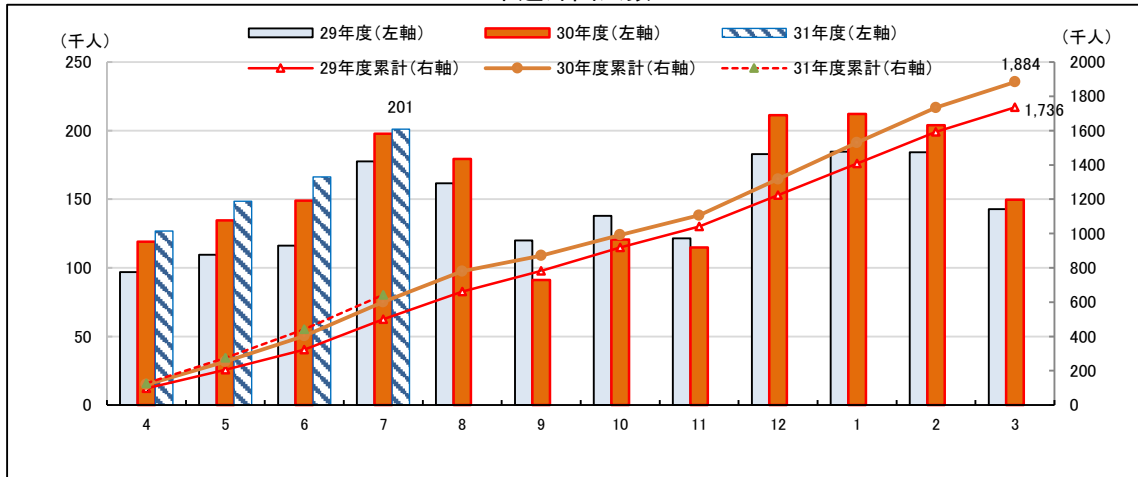
来道者数は、129万9千人で前年同月比0.1%の減少となり、5か月ぶりに前年を下回った。本道に直接入国した外国人は、20万1千人で同1.9%の増加となり、8か月連続で前年を上回った。

来道者数及び来道外国人の前年同月比



(資料：(公社)北海道観光振興機構、法務省入国管理局)

来道外国人数



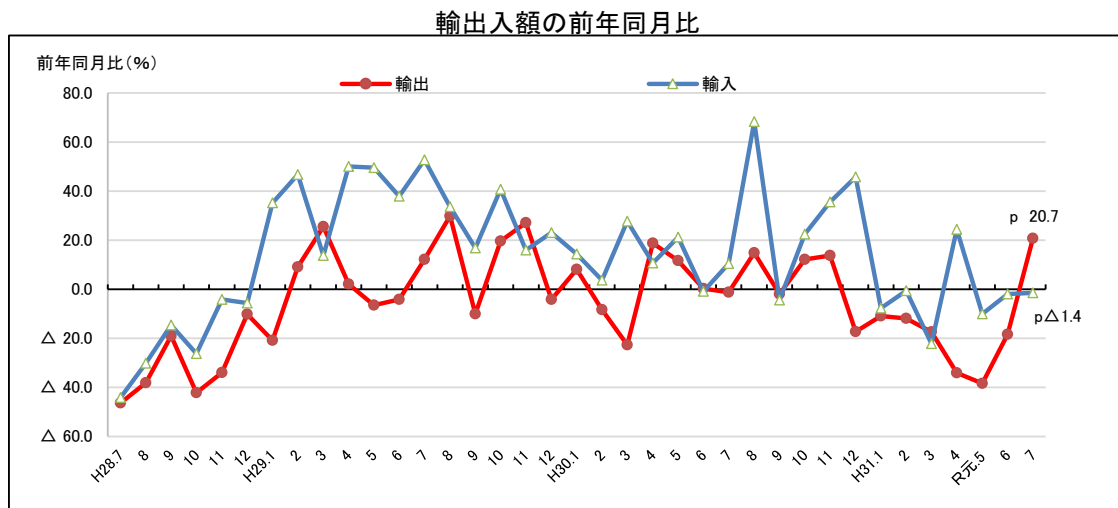
(資料：法務省入国管理局)

■輸出入～輸出額は前年を上回り、輸入額は前年を下回った

輸出入額（7月）

輸出額は、385億円で前年同月比20.7%の増加となり、8か月ぶりに前年を上回った。品目別にみると、再輸出品、電気機器、魚介類・同調製品などが増加した。

輸入額は、1,000億円で同1.4%の減少となり、3か月連続で前年を下回った。品目別にみると、石油製品、肥料、鉄鉱石などが減少した。



(資料: 函館税関)

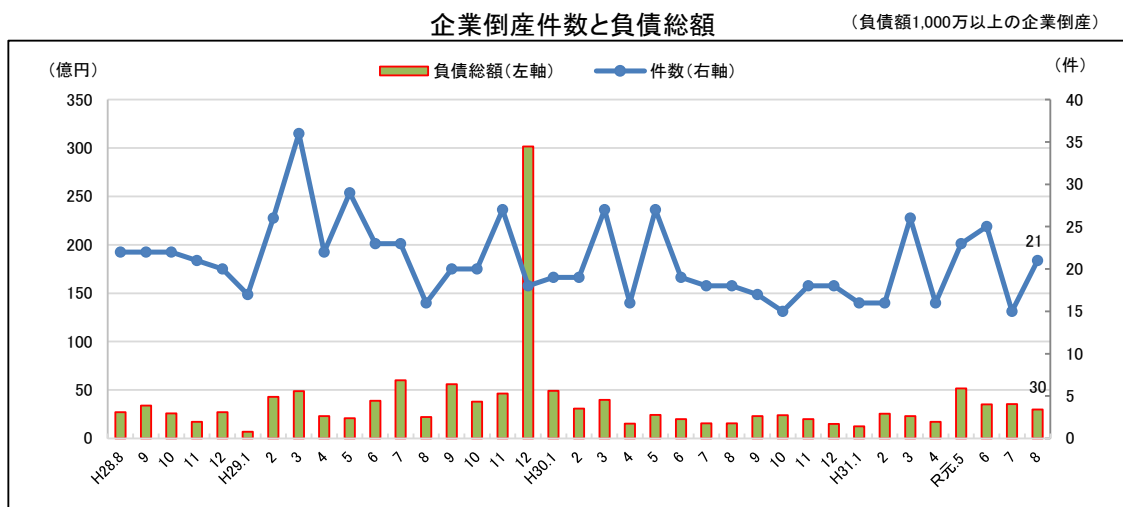
■企業倒産～倒産件数、負債総額とも増加した

企業倒産（8月）

企業倒産件数は、21件で前年同月比16.7%の増加となり、負債総額は、30億2500万円と同93.5%の増加となり、5か月連続で前年を上回った。

原因別でみると、販売不振が18件（構成比 85.7%）と半数以上を占めた。

業種別でみると、サービス業が6件（同28.6%）で最多となり、卸売業が5件（同23.8%）、建設業3件（同14.3%）と続いた。



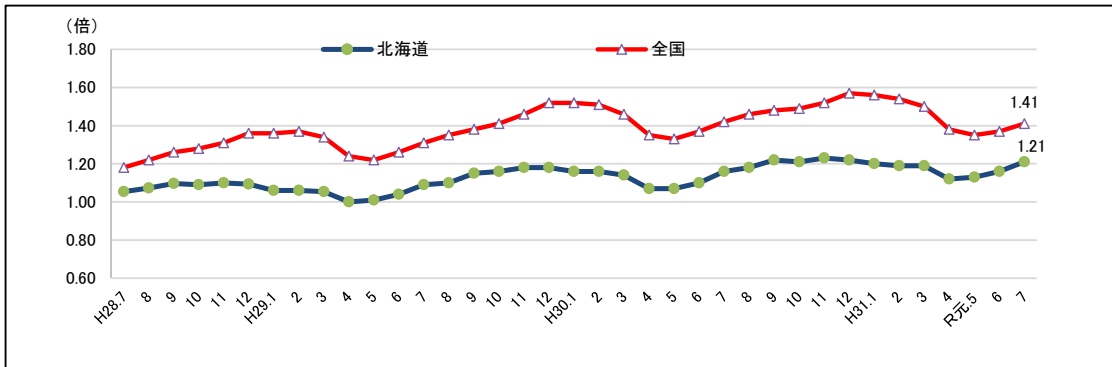
(資料: (株)東京商工リサーチ北海道支社)

■求人・求職～改善が進む中、人手不足感がみられる

月間有効求人数・求職者数・有効求人倍率（7月）

月間有効求人数は、9万5,180人で前年同月比2.2%の増加となり、10か月連続で前年を上回った。
 月間有効求職者数は、7万8,403人で同2.1%の減少となり、93か月連続で前年を下回った。
 有効求人倍率は、1.21倍で前年同月差で0.05ポイントの増加となり、114か月連続で前年を上回った。

有効求人倍率(常用)



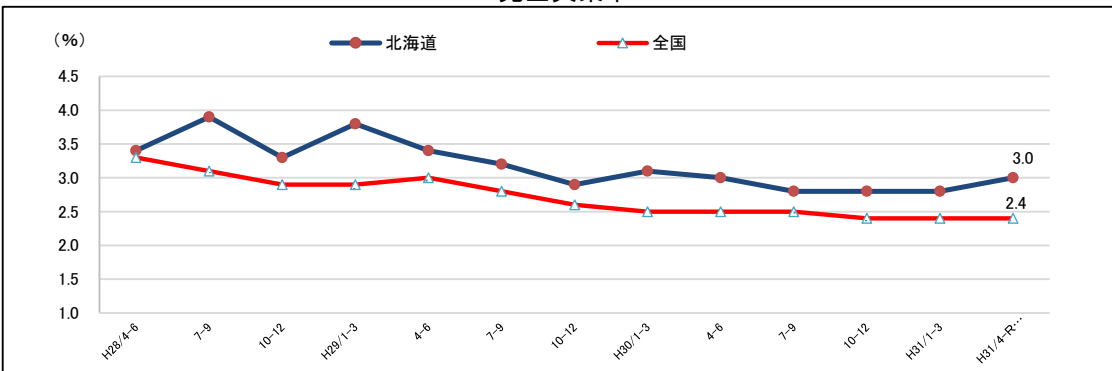
(資料:厚生労働省及び北海道労働局)

■失 業

完全失業者数、完全失業率(31年4月～元年6月期)

完全失業者数は、8万人で前年同期と比べ、同数となっている。
 完全失業率は、3.0%で前年同期と同率となっている。

完全失業率



(資料:厚生労働省及び北海道労働局)

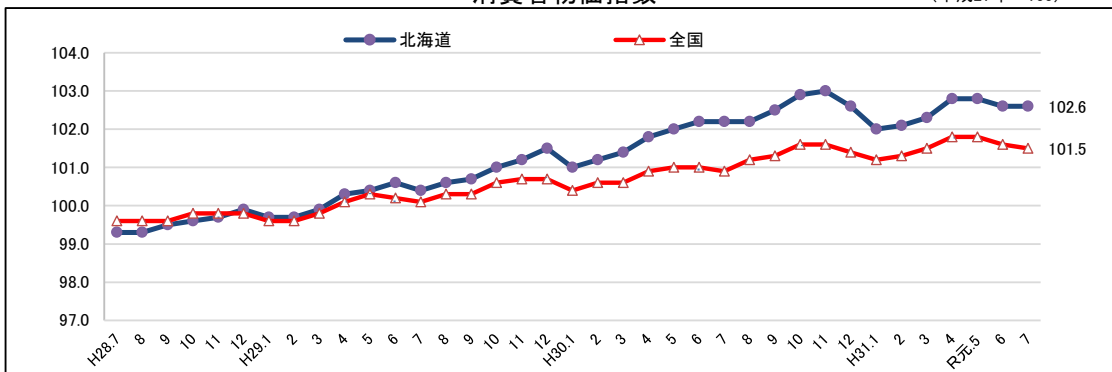
■物 価～消費者物価指数は前年を上回った

消費者物価指数(生鮮食品除く)(7月)

消費者物価指数は、102.6で前年同月比0.4%の上昇となり、32か月連続で前年を上回った。

消費者物価指数

(平成27年=100)



(資料:総務省)

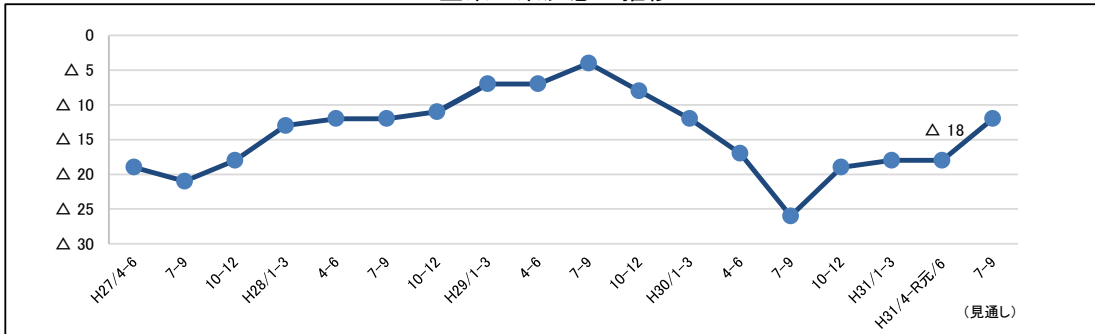
■企業の業況感～前期から横ばい

企業経営者意識調査（31年4月～元年6月期）

今期の業況感BSIは、 $\Delta 18$ で前期から横ばい。

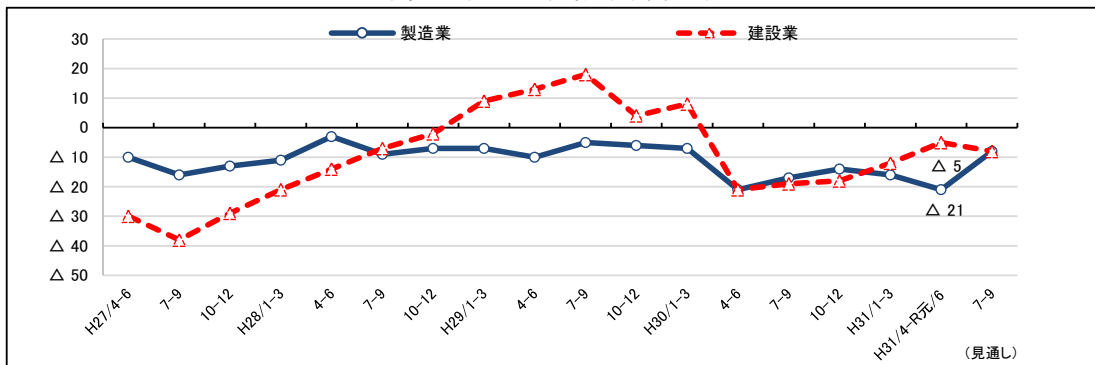
- ・業種別では、建設業、運輸業で上昇、製造業、卸売・小売業、サービス業で下降した。
- ・地域別では、道央、オホーツク、十勝で上昇、道南、道北、釧路・根室で下降した。

企業の業況感の推移



(資料:北海道)

業種別業況感(建設業、製造業)



(資料:北海道)

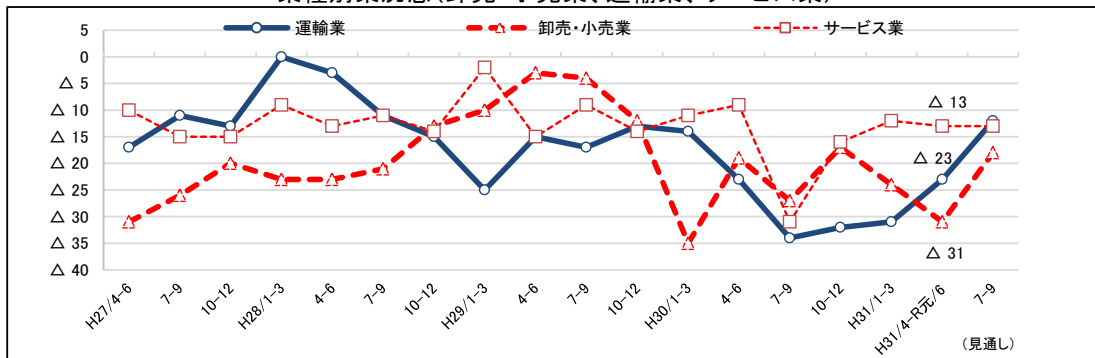
【建設業】 7ポイント上昇 (前期 $\Delta 12$ → 今期 $\Delta 5$)

- ・舗装工事業でプラスに転換、一般土木建築工事業や塗装工事業でマイナス幅が縮小

【製造業】 5ポイント下降 (前期 $\Delta 16$ → 今期 $\Delta 21$)

- ・プラスチック製品製造業や汎用機械器具製造業などでプラス幅が縮小、農業用機械製造業でマイナスに転換、外衣・シャツ製造業や造作材・合板・建築用組立材料製造業でマイナス幅が拡大

業種別業況感(卸売・小売業、運輸業、サービス業)



(資料:北海道)

【卸売・小売業】 7ポイント下降 (前期 $\Delta 24$ → 今期 $\Delta 31$)

- ・各種商品卸売業でプラス幅が縮小、家具・建具・畳小売業でマイナスに転換、野菜卸売業や建築材料卸売業、百貨店・総合スーパー、菓子・パン小売業でマイナス幅が拡大

【運輸業】 8ポイント上昇 (前期 $\Delta 31$ → 今期 $\Delta 23$)

- ・水運業などでプラス幅が拡大、道路旅客運送業や道路貨物運送業などでマイナス幅が縮小

【サービス業】 1ポイント下降 (前期 $\Delta 12$ → 今期 $\Delta 13$)

- ・ソフトウェア業でプラス幅が縮小、産業用機械器具賃貸業や産業廃棄物処理業でマイナスに転換、広告業や機械等修理業、一般廃棄物処理業でマイナス幅が拡大
- ・測量業や警備業でプラス幅が拡大、食堂・レストランでプラスに転換、通信業や持ち帰り・配達飲食サービス業などでマイナス幅が縮小

[企業情報]

□企業のみなさまから伺いました

◆百貨店（道央地域）

【中旬以降の売上は順調、インバウンドも回復】

8月上旬は猛暑日などの影響で来店者が減ったが、中旬以降は、例年開催している食品関連のイベント等が好評で、順調な売上となった。中華圏の売上が戻ってきており、インバウンド全体の売上は前年比プラスとなっている。

【増税前の駆け込みの兆し】

8月中旬頃から消費税増税前の駆け込みとみられる兆しがあり、9月中旬の連休以降は本格化してきた。化粧品や、高額品ではブランド物のコートや宝飾品、家具などが動いている。イベントも重なり、ワインなどの酒類も好調。

◆スーパー（道央地域）

【前年並みに推移で駆け込みはこれから】

8月は前年より土曜日と祝日が多い分の売上の数字を期待したが、前年並みに推移した。消費者の節約志向は続いている状況であり、来店客数が伸びていないことから景気がよいと感じている方は多くないと見ている。8月までは日用品や酒類の消費税率引上げ前の駆け込み買いはみられず、スーパーの場合、はっきりとした駆け込みがあるのは増税直前の2週間前くらいからと思う。

【お盆は前倒し傾向】

お盆の「9連休」期間の売上は前倒し傾向があり、11日～13日に売上のピークがあった。お盆の帰省で集まって大型のおもてなしのごちそうを食べることが少なくなっていると見られ、個食・少量パックの商品が好調だった。8月の初めは暑い日が多く、ドライ飲料が好調だったほか、家庭での調理が敬遠されたためか、デリカや冷凍食品の売上も好調だった。

◆コンビニエンスストア（道央地域）

【天候に恵まれ夏型商品が好調】

8月は気温が高く、天候も安定していたため、飲料水、アイス、冷麺、ビールなどの夏型商品が好調だった。人の動きもよく、幹線沿いの店舗や行楽地域などの地方店舗の売上が伸びた。また、農作物の順調な生育も消費マインドに好影響があったとみられ、米作地域の売上も安定している。

【消費増税の影響】

キャッシュレス決済で2%のポイント還元などの施策があるので、これまでの消費増税時のような、増税後の節約マインドや買い控えの影響は小さくなると考えている。

◆水産食料品製造業（道南地域）

【コストの価格転嫁は困難】

主な原料であるスルメイカは、不漁により高値が続いている。イカは輸入もしているが、中国、韓国、南米などでも不漁である。原料以外にも包装資材や調味料の値段が上昇しており、高止まりが続いている電気料金も相まって利益を圧迫している。さらに10月からの消費増税でパックなどの資材が値上がりするが、競争上、価格転嫁は難しいと考えている。

【地場産食材で新たな取組】

最近のイカ製品の出荷量及び売上は前年並みであるが、近年、不漁続きであることに加え、魚介類を消費するのは年配層であることから、世代交代とともに水産加工品の売上は年々落ちてきている。このため、観光客向けに地場産の野菜や牛肉を使った常温保存が可能なレトルト食品に力を入れている。

◆ 水産食料品製造業（道南地域）

【付加価値を高めて出荷額を維持】

イカの不漁続きで原材料事情は厳しく、乾燥珍味は製造を極端に減らしている。様々な経費増で商品の値上げはやむを得ないが、味にこだわり、原材料や処理方法に工夫を重ね、出荷額を維持している。道外での催事の売上が比較的によく調なほか、高所得層向けに高付加価値化の取組で健闘している。

【新卒者の採用がゼロ】

当社では今年度は新卒求人の願書がゼロだった。毎年2～3人の新卒者を採用していたが、最近の不漁のイメージと、少子化の影響で新卒者の採用は年々厳しくなっている。原料不足で生産量が落ちており、更に従業員が高齢化しており、将来的な人手と工場稼働については不安に思っている。

◆ 製造業（道南地域）

【米中貿易摩擦などの影響甚大】

長引く米中貿易摩擦と中国経済の減速により自動車やスマートフォンの製造が減少し、部品製造や関連事業で売上高が大きく減少している。当社でも従業員の高齢化により人材確保が課題となっているが、海外市況の影響を受け、最近では人員の過剰感がある。

【安い電気料金プランに切り替え】

照明をLEDに変えるなど電気料金のコスト削減に努めているが、工場ではエアコンが常に稼働しており、電気料金値上げの影響を大きく受けている。安い電気料金プランを提案してくれる会社との契約に切り替えるなどの工夫も行っている。

◆ 建設業（道南地域）

【増収で推移】

今年度の完成工事高は、増収で推移している。新幹線トンネル工事のほか、国土強靱化に係る道路改良工事や港湾・漁港工事などの受注が増加している。

【人手不足が顕著】

工事の発注は増加しているが、技術者などの人手不足で入札参加に影響が出ることもある程の顕著な状況。過去に採用を抑えてきたこともあり、35～40歳が特に少ない年齢構成となっている。人手不足や安全性を考慮し、情報通信技術を活用した工事に積極的に取り組んでいる。

地元の新卒者を積極的に採用したいが、札幌に本社がある企業や、東京オリンピック関連工事で本州の企業に就職する学生が多いため、毎年、2～3名の採用にとどまっている。

◆ 観光業（道南地域）

【お盆期間中の天候不良等により、入込客数は前年割れ】

8月の入込客数は前年を下回っており、お盆期間中の台風による航空便の運休のほか、ゴールデンウィークの反動減によるものと考えられる。バニラエアの函館ー成田線休止の影響で、特に若年齢層の航空機利用が減少したと感じている。

【外国人観光客が減少傾向】

外国人団体観光客は台湾が7～8割を占めているが、団体旅行から個人旅行へのシフトなどにより、入込客数は前年割れの傾向が続いている。函館空港に国際線がある台湾の航空会社で、6月ー7月にストライキによる運休があったことも影響している。また、最近は日韓関係の悪化により、韓国人の減少が著しい。冬場の観光客は外国人が大半を占めるので、外国人の入込みに向けた取組が重要である。館内での多言語案内表示、多言語放送の導入や外国人スタッフの登用を進めている。

【クルーズ船入港数が過去最高】

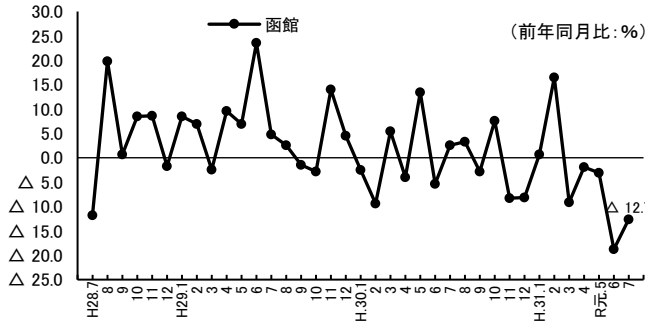
函館港の整備や誘客などの取組が順調に進んでおり、今年度のクルーズ船の入港数は過去最高を記録する見込み。乗客は函館だけではなく近隣も周遊することから、これからは船観光の誘客も地域一体で進めていく重要性を感じている。

[地域の経済動向]

■道南地域(渡島、檜山)

◆新車登録台数(乗用車) (7月)

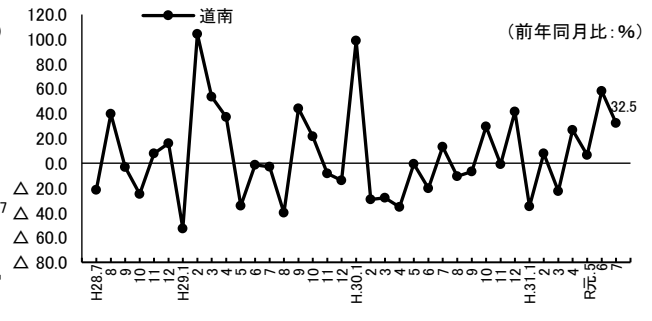
5か月連続で前年を下回った



(資料: (一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車連合会)

◆新設住宅着工戸数 (7月)

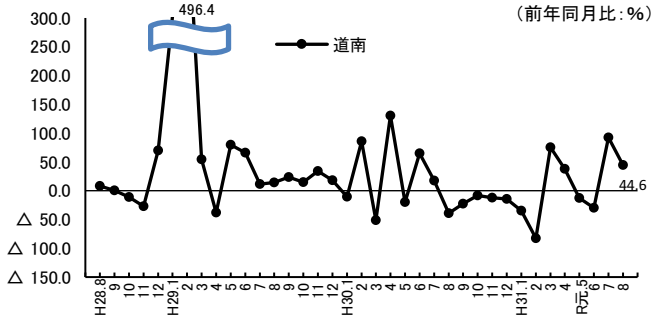
4か月連続で前年を上回った



(資料: 国土交通)

◆公共工事請負金額 (8月)

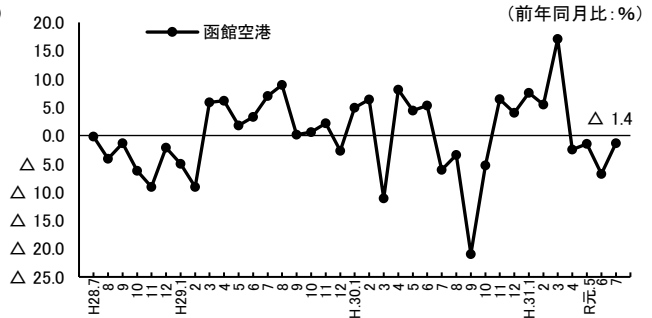
2か月連続で前年を上回った



(資料: 北海道建設業信用保証(株))

◆航空機利用による来道者数(着地別) (7月)

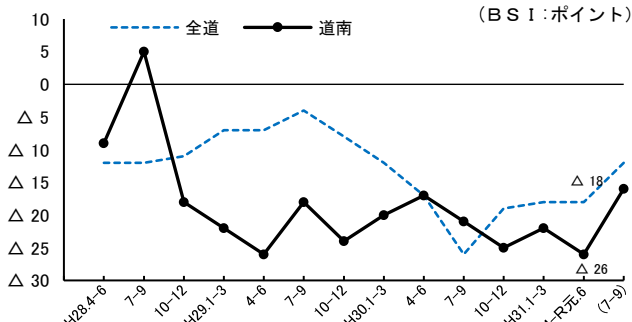
4か月連続で前年を下回った



(資料: (公社)北海道観光振興機構)

◆企業の業況感 (4-6月期)

前期からマイナス幅が拡大した

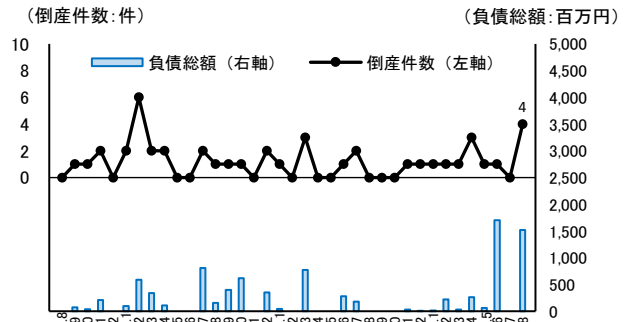


※最新期()は見直し

(資料: 北海道経済部)

◆企業倒産件数・負債総額 (8月)

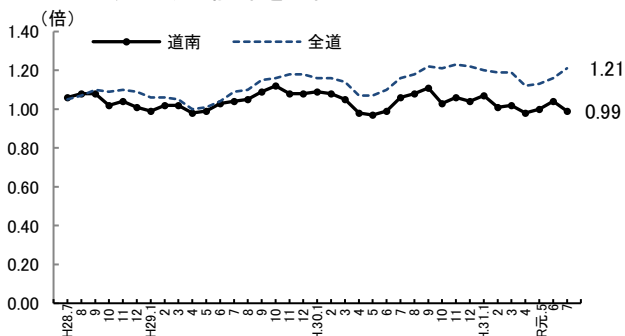
10億円以上の大型倒産が1件発生した



(資料: (株)東京商工リサーチ北海道支社)

◆有効求人倍率(常用) (7月)

4か月ぶりに前年を下回った

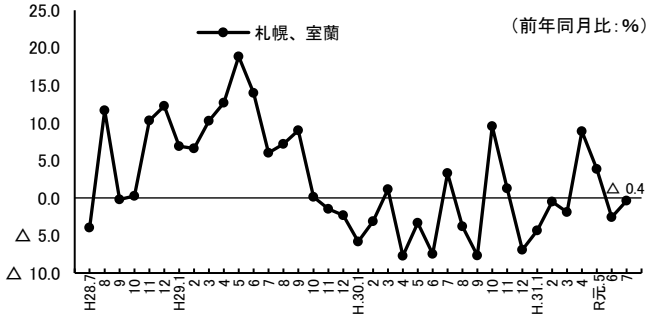


(資料: 北海道労働局) - 12 -

■道央地域（石狩、空知、後志、胆振、日高）

◆新車登録台数(乗用車) (7月)

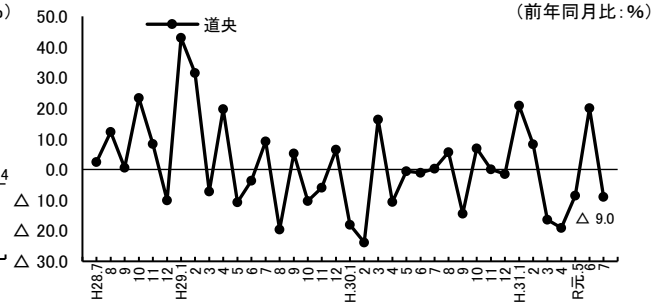
2か月連続で前年を下回った



(資料: (一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車連合会)

◆新設住宅着工戸数 (7月)

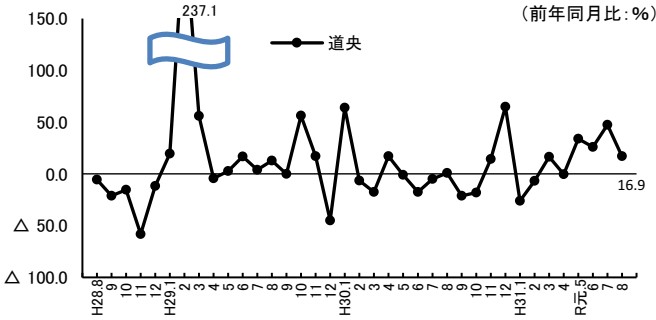
2か月ぶりに前年を下回った



(資料: 国土交通省)

◆公共工事請負金額 (8月)

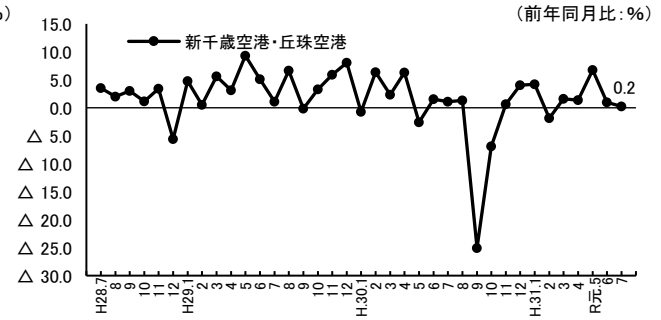
4か月連続で前年を上回った



(資料: 北海道建設業信用保証(株))

◆航空機利用による来道者数(着地別) (7月)

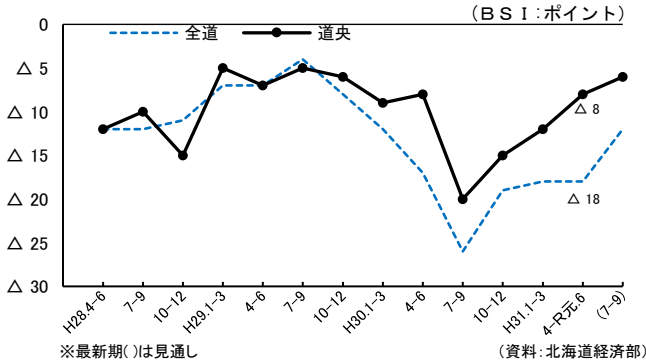
5か月連続で前年を上回った



(資料: (公社)北海道観光振興機構)

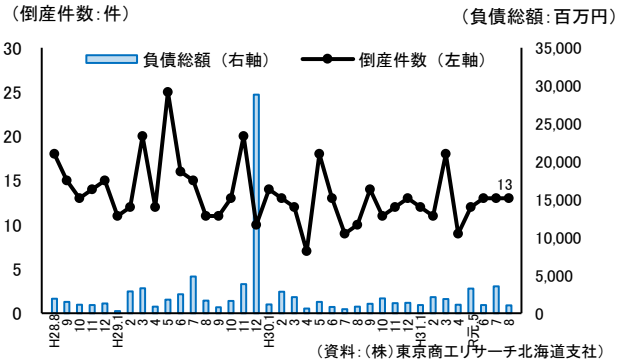
◆企業の業況感 (4-6月期)

前期からマイナス幅が縮小した



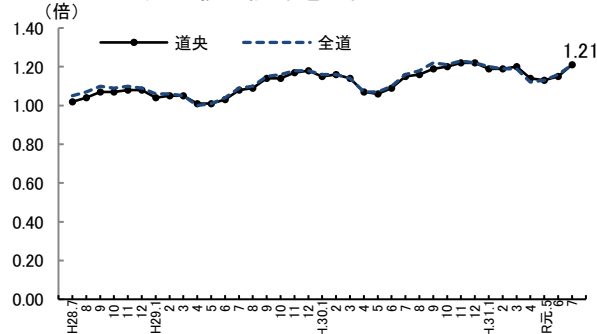
◆企業倒産件数・負債総額 (8月)

10億円以上の大型倒産は発生しなかった



◆有効求人倍率(常用) (7月)

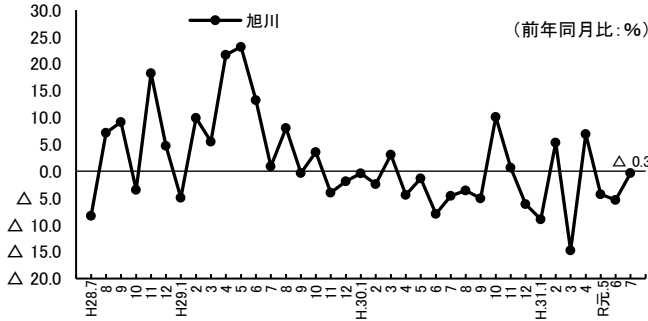
113か月連続で前年を上回った



道北地域(留萌、上川、宗谷)

◆新車登録台数(乗用車) (7月)

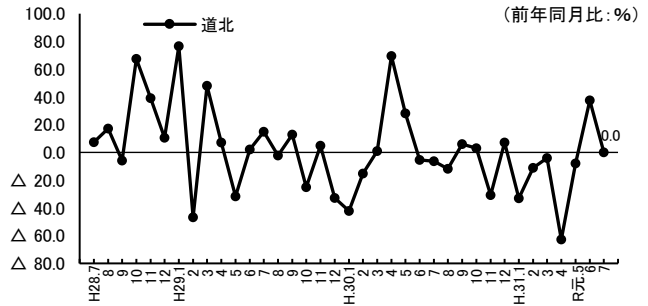
3か月連続で前年を下回った



(資料:(一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車連合会)

◆新設住宅着工戸数(7月)

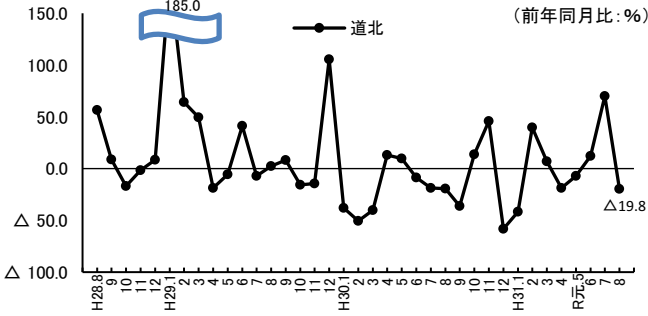
前年と同率であった



(資料:国土交通省)

◆公共工事請負金額(8月)

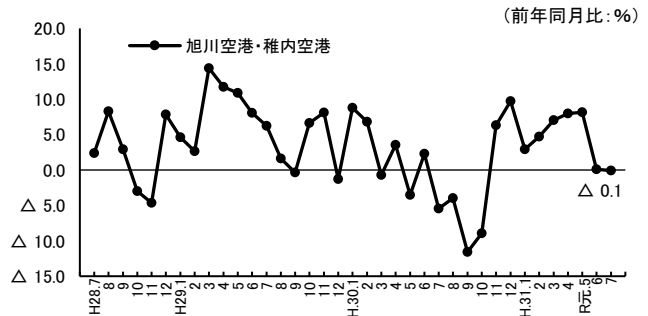
3か月ぶりに前年を下回った



(資料:北海道建設業信用保証(株))

◆航空機利用による来道者数(着地別)(7月)

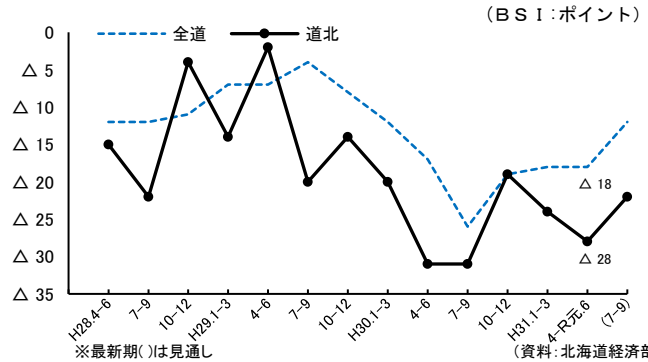
9か月ぶりに前年を下回った



(資料:(公社)北海道観光振興機構)

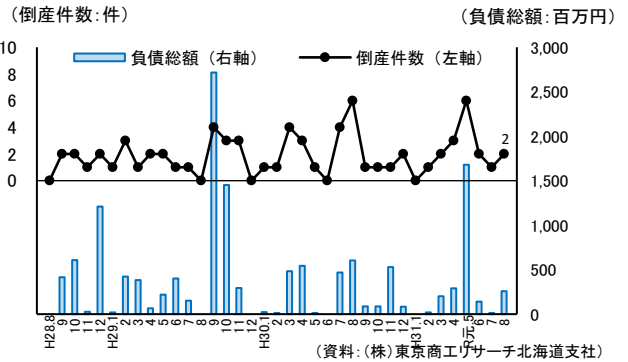
◆企業の業況感(4-6月期)

前期からマイナス幅が拡大した



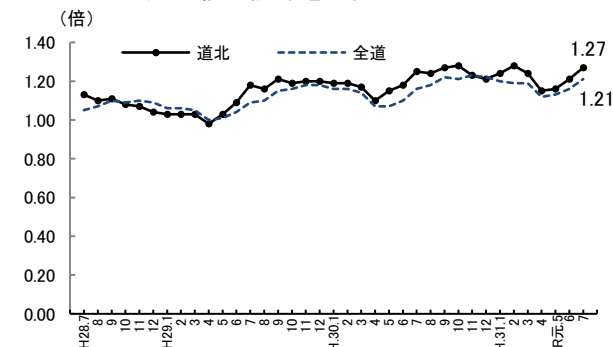
◆企業倒産件数・負債総額(8月)

10億円以上の大型倒産は発生しなかった



◆有効求人倍率(常用)(7月)

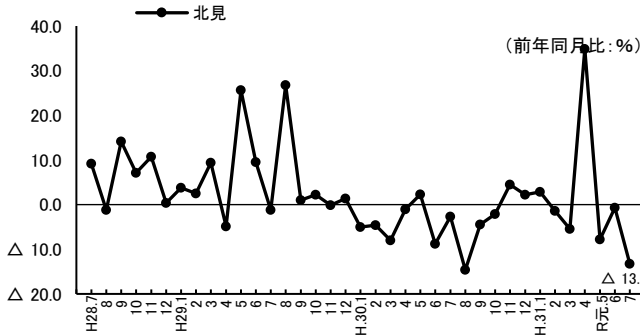
28か月連続で前年を上回った



オホーツク地域

◆新車登録台数(乗用車) (7月)

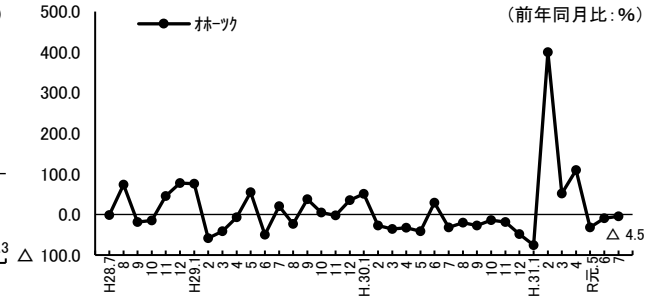
3か月連続で前年を下回った



(資料:(一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車連合会)

◆新設住宅着工戸数 (7月)

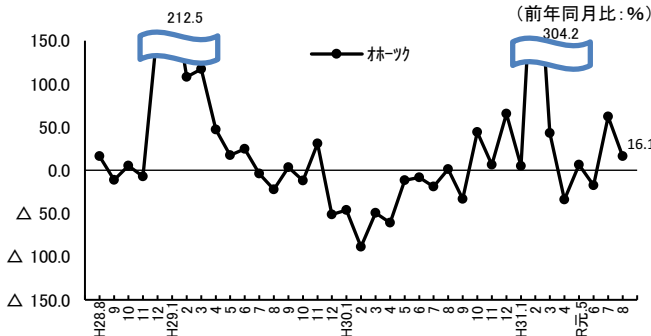
3か月連続で前年を下回った



(資料:国土交通省)

◆公共工事請負金額 (8月)

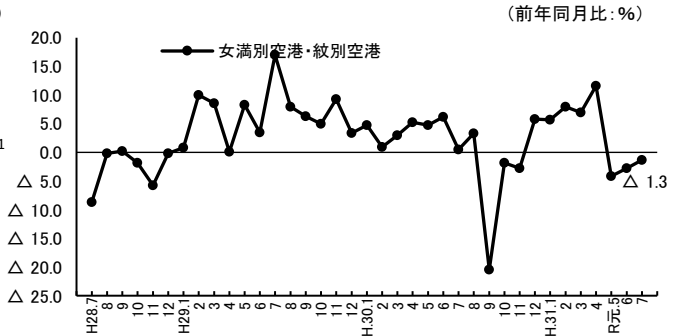
2か月連続で前年を上回った



(資料:北海道建設業信用保証(株))

◆航空機利用による来道者数(着地別) (7月)

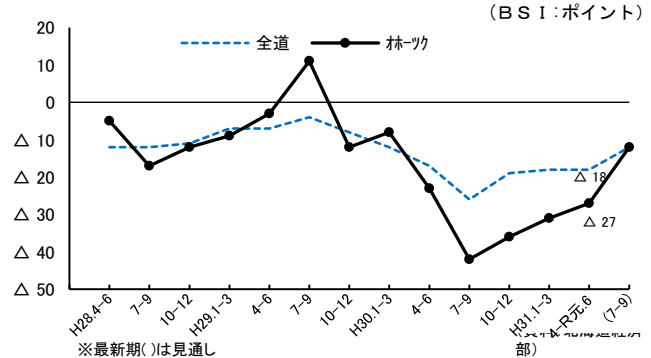
3か月連続で前年を下回った



(資料:(公社)北海道観光振興機構)

◆企業の業況感 (4-6月期)

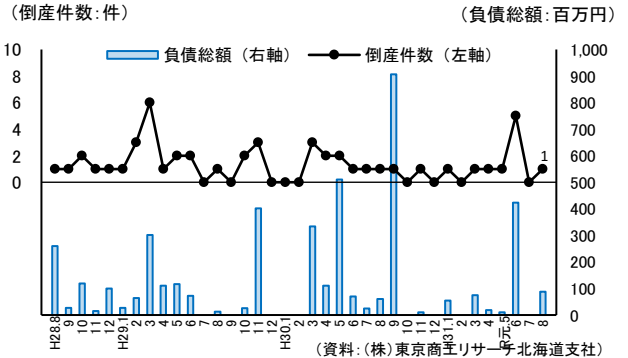
前期からマイナス幅が縮小した



※最新期()は見通し

◆企業倒産件数・負債総額 (8月)

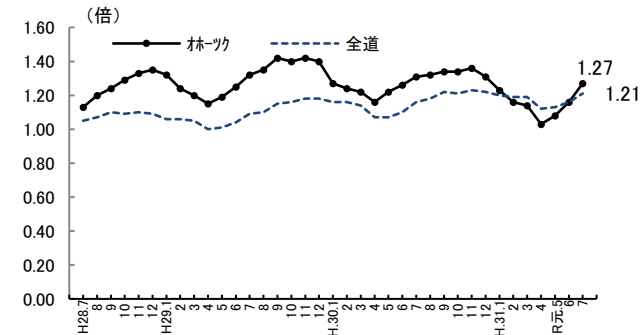
10億円以上の大型倒産は発生しなかった



(資料:(株)東京商工リサーチ北海道支社)

◆有効求人倍率(常用) (7月)

13か月連続で前年を下回った

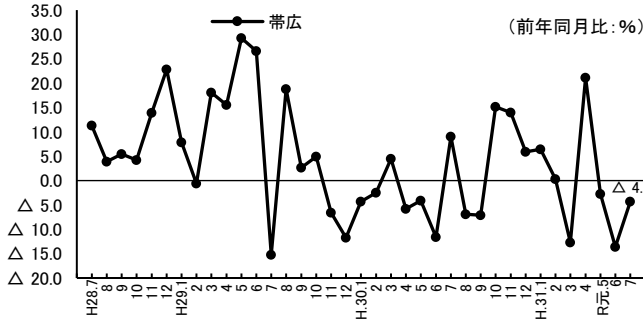


(資料:北海道労働局) - 15 -

■十勝地域

◆新車登録台数(乗用車) (7月)

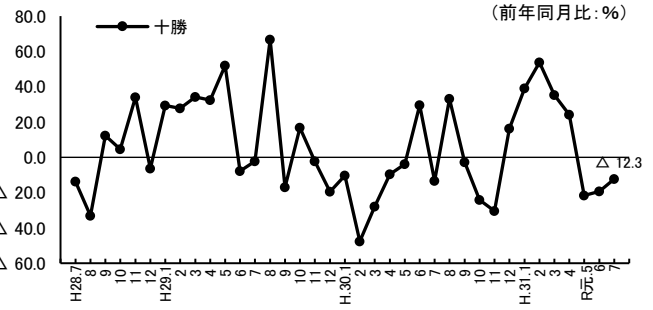
3か月連続で前年を下回った



(資料: (一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車連合会)

◆新設住宅着工戸数 (7月)

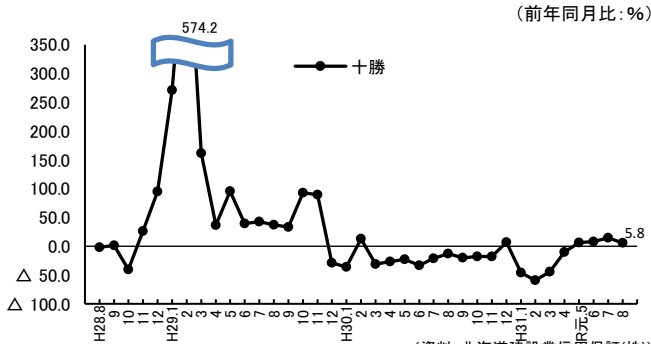
3か月連続で前年を下回った



(資料: 国土省)

◆公共工事請負金額 (8月)

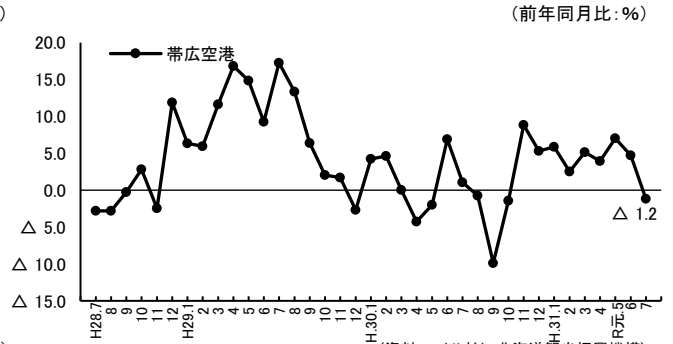
4か月連続で前年を上回った



(資料: 北海道建設業信用保証(株))

◆航空機利用による来道者数(着地別) (7月)

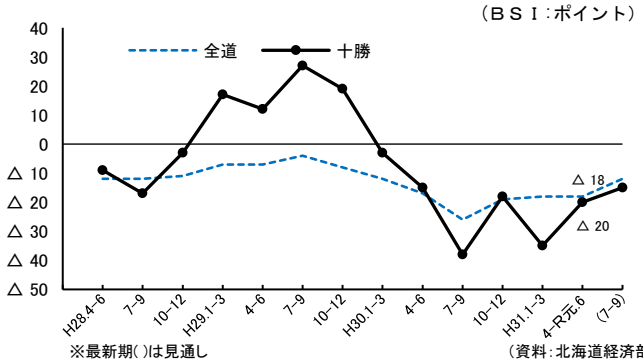
9か月ぶりに前年を下回った



(資料: (公社)北海道観光振興機構)

◆企業の業況感 (4-6月期)

前期からマイナス幅が縮小した

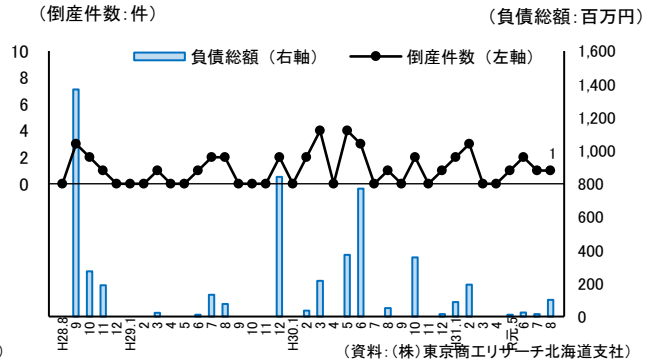


※最新期()は見通し

(資料: 北海道経済部)

◆企業倒産件数・負債総額 (8月)

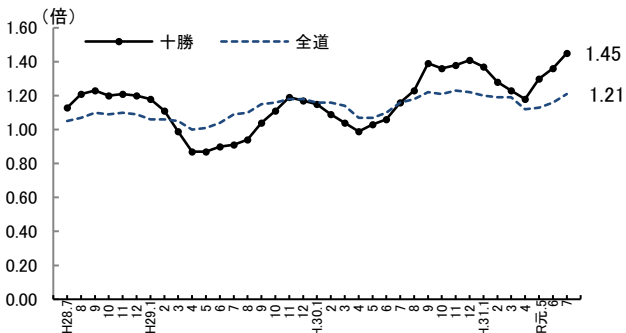
10億円以上の大型倒産は発生しなかった



(資料: (株)東京商工リサーチ北海道支社)

◆有効求人倍率(常用) (7月)

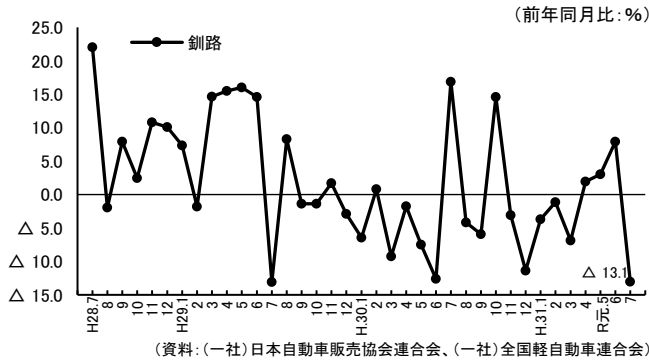
17か月連続で前年を上回った



釧路・根室地域

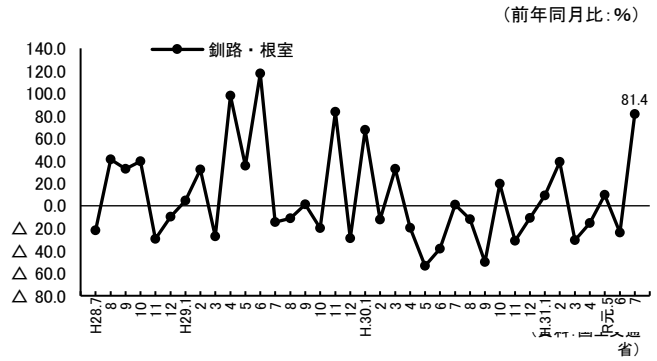
◆新車登録台数(乗用車) (7月)

4か月ぶりに前年を下回った



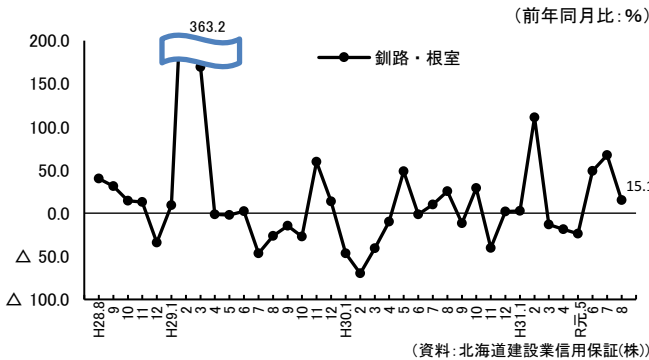
◆新設住宅着工戸数 (7月)

2か月ぶりに前年を上回った



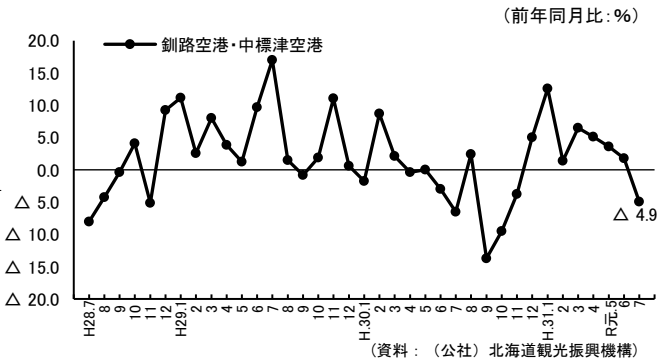
◆公共工事請負金額 (8月)

3か月連続で前年を上回った



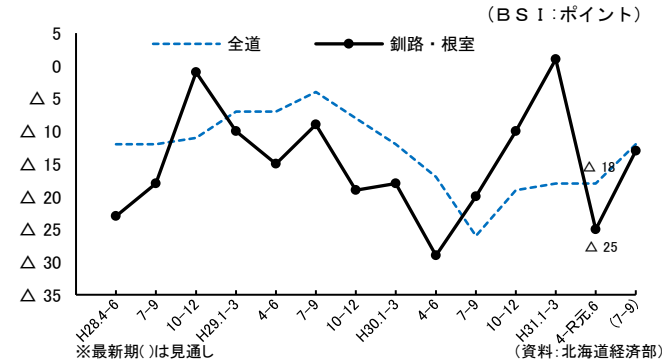
◆航空機利用による来道者数(着地別) (7月)

8か月ぶりに前年を下回った



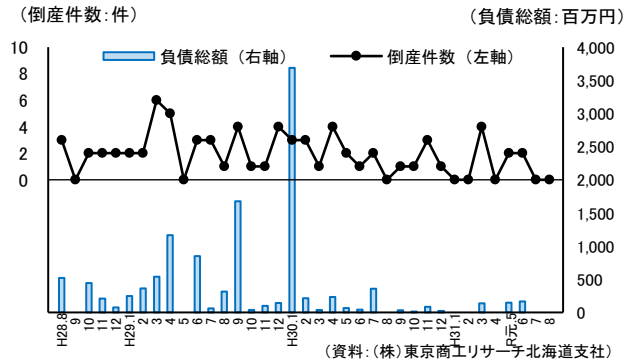
◆企業の業況感 (4-6月期)

前期プラスからマイナスに転換した



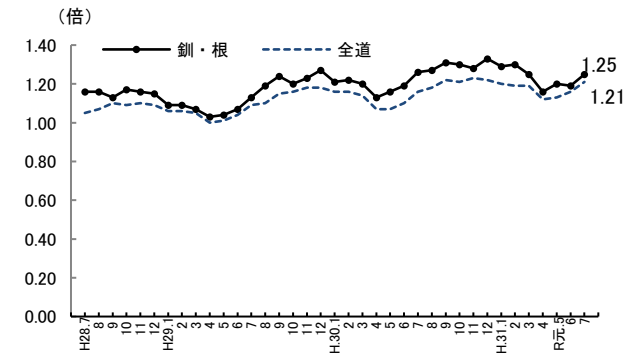
◆企業倒産件数・負債総額 (8月)

倒産は発生しなかった



◆有効求人倍率(常用) (7月)

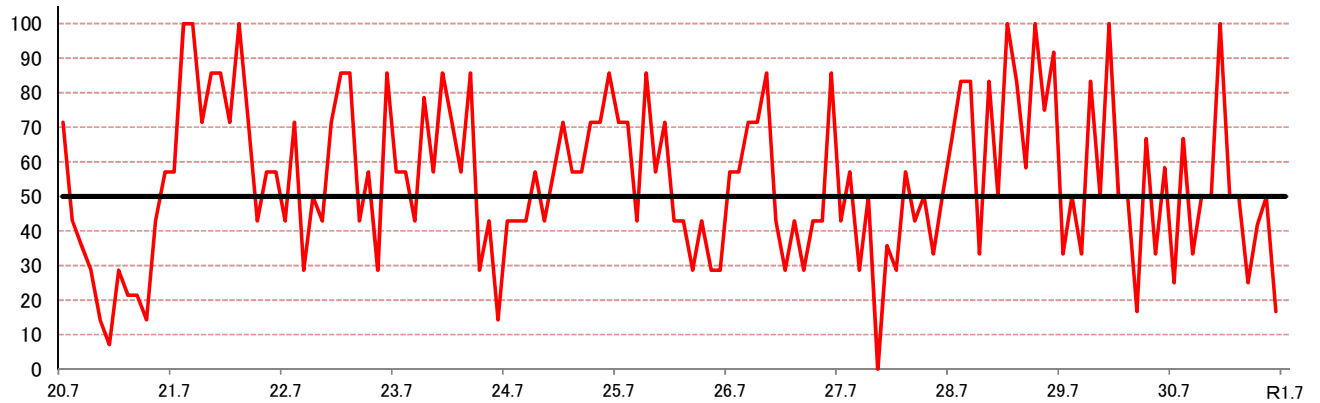
24か月ぶりに前年を下回った



[景気動向指数]

■ 北海道の景気動向指数

景気動向指数(一致系列)グラフ



景気動向指数(先行・一致・遅行)変化

系列名	30/7月	8月	9月	10月	11月	12月	31/1月	2月	3月	4月	R1/5月	6月	7月
先行													
新規求人数(新規学卒を除く全数)	-	+	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-
雇用保険受給者実人員(逆サイクル)	-	+	-	+	-	+	-	-	-	-	+	+	+
生産指数(生産財)	-	-	-	-	-	+	-	+	-	-	+	-	p-
遅行													
新車登録台数(軽を含む乗用車)	-	-	-	+	+	-	-	-	-	+	+	+	-
新設住宅着工戸数	-	-	-	-	-	+	+	+	-	-	-	+	+
企業倒産件数(逆サイクル)	-	+	+	+	-	+	-	+	+	+	-	-	+
企業業況判断D.I.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	+	+	+	
一致													
拡張系列数	0	3	1	4	2	5	2	4	2	4	5	5	3
採用系列数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	6
先行指数	0.0	42.9	14.3	57.1	28.6	57.1	28.6	57.1	28.6	57.1	71.4	r71.4	p50.0
一致													
有効求人倍率(新規学卒を除く全数)	0	+	+	+	+	+	+	+	0	0	+	+	0
生産指数(鉱工業)	-	-	-	-	+	+	-	-	-	-	-	r-	p-
出荷指数(生産財)	-	-	-	-	-	+	-	+	-	-	-	r-	p-
百貨店販売額(既存店)	-	+	-	+	+	+	+	-	+	-	+	r-	p-
着工建築物数(鉱業、建設業用+製造業用)	-	+	-	-	-	+	+	+	-	+	-	+	0
遅行													
輸入通関実績(原油及び粗油を除く)	+	+	+	+	-	+	-	-	-	+	+	r+	p-
拡張系列数	1.5	4	2	3	3	6	3	3	1.5	2.5	3	3	1
採用系列数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
一致指数	25.0	66.7	33.3	50.0	50.0	100.0	50.0	50.0	25.0	41.7	50.0	r50.0	p16.7
遅行													
常用雇用指数(規模30人以上)	-	-	-	-	-	-	+	+	+	-	-	+	
完全失業率(逆サイクル)	0	0	0	-	-	-	+	+	+	-	-	-	
消費者物価指数(総合)	+	+	+	+	-	-	-	-	0	+	+	0	-
家計消費支出(二人以上の勤労者世帯)	+	+	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	+
生産指数(資本財)	+	-	-	+	+	+	+	+	-	-	-	r-	p-
拡張系列数	3.5	2.5	1.5	2	1	2	4	4	3.5	2	2	2.5	1
採用系列数	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	3
遅行指数	70.0	50.0	30.0	40.0	20.0	40.0	80.0	80.0	70.0	40.0	40.0	r50.0	p33.3

(注) 1 北海道経済部経済企画局経済企画課試算。pは速報値、rは確報値。

2 景気動向指数(Diffusion Index 略してDI)は、景気に敏感な諸指標を選定し、そのうち上昇(拡張)を示している指標の割合を示すものであり、景気局面の判断、予測と景気転換点(景気山・谷)の判定に用いる。採用系列の各月の値を3カ月前の値と比較して、増加した時には+を、保合いの時には0を、減少した時には-をつける(変化方向表)。その上で、先行、一致、遅行の各系列群ごとに採用系列数に占める拡張系列数(+の数)の割合(%)をDIとする。

DI=拡張系列数/採用系列数×100(%) (保合い(0)の場合は0.5としてカウントする。)

最近の経済動向
令和元年9月号

編集・発行 北海道経済部経済企画局経済企画課

TEL 011-204-5139

「最近の経済動向」のデータ集は、北海道のホームページでご覧になれます。

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kks/ksk/tgs/saikin-doukou.htm>